

あうる

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

北海道歴史秘話 36

プロシアの貿易商人が 描いた北海道全体を 植民地にしようという 恐ろしくも壮大な野望

ガルトネル事件

幕末のプロシア（現在のドイツ）の貿易商人リヒャルト・ガルトネルは、箱館駐在プロシア副領事のコンラート・ガルトネルの兄である。

箱館奉行所から農業の試作を依頼されたコンラートが、兄のリヒャルトを紹介。リヒャルトは七重村（現在の七飯町）の農業試作用地を貸与され、西洋農法で日本初のリンゴ栽培や洋ナシ、サクランボなどの西洋果物の栽培を始めた。

ガルトネル事件とは、この兄弟が明治維新の最中、七重村を中心に三百万坪という広大な土地を九十九年租借する条約を旧幕府軍と交わし、それを取り消すために明治新政府が莫大な補償金を払って、ようやく権利を取り戻したという事件であった。

プロシアの植民地に

旧幕府軍は次第次第に資金が欠乏したため、わずかなお金で膨大な農地を譲渡した。リヒャルトはその土地を開拓するため、プロシアからも何人か農業者を呼んでいた。

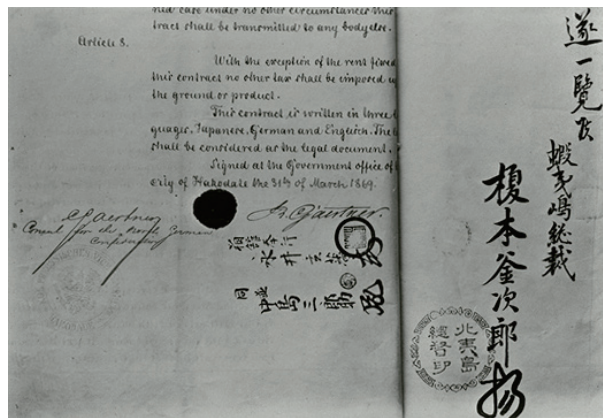
彼が描いていた構想は、この土地から莫大な財産を生み出そうといったレベルのものではなく、北海道全体をプロシアの植民地にしようというものであった。

「プロシア北部に似た気候、ほとんどが原始林に覆われた肥沃な土地、鉱物資源も豊か等々、プロシア国民何百万人のために、尽きることのない繁栄の源になるだろう！ アイルランドよりも広いこの土地

土地返還のために 大金を払った 明治新政府



に人口はわずか二十万人。日本人にはあまり適していない気候のため、彼らは決してこの土地の人間になることはないだろう。遅かれ早かれ、この島はどこかの国のものになるに違いない。我がプロシアでなければ



ガルトネル条約文（北海道大学附属図書館所蔵）
旧幕府軍との間で交わされた条約文。永井玄蕃、中島三郎助の署名も見える

遂一覽表
蝦夷地開拓

榎本武揚

ば、サハリン全土を取ってしまったロシアであろう」

リヒャルトは友人に語り、嬉しそうにこう付け加えた。

「購入して、ここに足場を築いておいたので、我々をそう簡単に追い出すことはできないだろう」

まさに北海道を植民地にしようという恐ろしくも壮大な野望である。

農場契約の更新

一八六三（文久三）年、開港された箱館に、ガルトネル兄弟がやって来た。

兄リヒャルト・ガルトネルは貿易業を始め、弟のコンラート・ガルトネルは二年後の一八六五（慶応元）年、箱館駐在プロシア副領事に就任した。

翌年、箱館奉行の杉浦勝誠がコンラートを招き、捕鯨についていろいろ尋ねたことがあった。悪知恵の働く彼は、漁業だけで

はなく農業の大切さを説き、蝦夷地開拓推進のためとして、七重村の一部を兄弟で借りることに成功、ここに農場を開設した。

一八六八（明治元）年、箱館戦争が始まり、榎本武揚をリーダーとした旧幕府軍が蝦夷地を占拠すると、ガルトネル兄弟はすかさず契約を更新。「ガルトネル氏七重並びに近傍の荒野三百万坪、蝦夷政府より九十九年間限り借受け」という、より一層あくどい条約の締結に成功した。二人は三百万坪の大地域を半永久的に租借する大地主になったのである。しかも十年間は無税であった。

その後、旧幕府軍の蝦夷政府が降伏、明治新政府の箱館裁判所が設置されると、チャンスとばかり、借りた農場の契約変更を企て、リヒャルトはまんまと箱館府雇傭人となることに成功し、七重村の土地七万坪の開墾を行う身分となった。この契約により、村民は自らの農地をガルトネルに横取りされるような形となってしまう、土地境界や契約を巡るトラブルが続発。住民たちはこの窮状を何とかしてほしいとたびたび箱館府に陳情したが、維新直後の混乱期であったため、要請が善処されることはなかった。

ようやく条約破棄

旧幕府軍が倒れ、箱館府が開庁されても、ほぼ同じ内容で条約を更新したガルトネル兄弟は、開拓使が設置されると、これにも強引に契約更新を迫った。開拓使は驚き、とてもかなう相手ではないと中央政府に伝えた。



榎本武揚
（国立国会図書館ウェブサイトより）

それを知った中央政府は、この土地を足掛かりに蝦夷地が植民地化されるおそれがあるとし、開拓使へ条約を破棄するよう伝えた。

その時の開拓長官は東久世通禧だったが、実質的には開拓次官となった黒田清隆が中心となり、ガルトネル兄弟との厳しい交渉が行われた結果、政府は洋銀六万二五〇〇両という莫大な賠償金をガルトネルに払い、ようやく契約を解消してもらった。

最初は高圧的な態度を取っていたガルトネル兄弟も、六万二五〇〇両という大金の魅力には勝てず、土地を日本に返還し、一八七二（明治四）年二月、成功者として函館を後にした。

また、ガルトネル兄弟が開墾した七重村には、ヨーロッパからリンゴ・サクランボ・セイヨウナシなどの果樹や、ウシ・ウマ・ブタなどの家畜及び牧草が導入され、この地が日本の「西洋農業発祥の地」となった。北海道全体が彼らの狙い通り、プロシアの植民地となっていたら、どうなっていたであろう。九十九年租借地だった香港と同じような運命をたどっていたかもしれない。

あつろの杜

NPO法人苫東環境コモンズ事務局長
草苅 健さん

Interview

「苫東環境コモンズの柱は雑木林とハスカップ」と言い、コモンズで苫小牧東部地域の緑地保全に取り組む草苅健さんのあつろの杜です。

ハスカップとの出会い

北海道大学農学部の中に造林学という講座があり、その研究生の頃は、就職難でした。そこへ「君にちょうどいい職があるから行きなさい」と教授に言われたのが、苫小牧東部開発(株)でした。

一万ヘクタールある敷地の外周と真ん中の三四〇〇ヘクタールを緩衝緑地で囲う、というプロジェクトの仕事でした。当時の苫東は木の育たない所でしたから、緩衝緑地をいかに作るかというノウハウが必要のため、苫東会社では緑地担当の専門者が必要だったんです。その頃のフィールドにはハスカップがごっそりありました。

入社して四、五年ぐらい経ったときに、アセスメントという調査を実施する必要があって、貴重な植物があれば移植しなさいとか、そこに工場を建てるのを止めなさいとか、色々な手立てをしなさいといかない法律がちやうどできていまして、ハスカップを保全す

昔、至る所にハスカップがあった



草苅 健
くさかり たけし

1951年山形市生まれ。
1970年、北海道大学入学。農学部林学科へ進み、森林美学関連を卒論に選ぶ。
1976年、苫小牧東部開発(株)入社。
1998年6月、会社の経営破綻に伴い退社。7月から札幌の財団へ。(株)苫東の雑木林の一部を借り保育作業を開始、2005年にはフットパスを開設。
2010年1月、NPO法人苫東環境コモンズとして活動開始。
現在、雑木林&庭づくり研究室主宰及びNPO法人苫東環境コモンズ事務局長。
著書に『林とこころ』、共著に『生活見なおし型観光とブランド形成』、『これからの選択 ソーシャル・キャピタル』、『コモンズ 地域の再生と創造』がある。



ることになりました。それがハスカップとの出会いとなります。それまでは、名前は聞いたことがありましたが、何となく知らなかった。だってものごくローカルな植物ですから。

「苫東環境コモンズ」の活動

苫小牧東部開発(株)が一九九八年に破綻し、私も会社を辞めました。その事業を引き継いだ(株)苫東が、

職員の数を半分にして動き始めた。身軽になったわけですが、その半面、緑地全体の管理に手が回らなくなっていました。

私が緑地担当だった頃は、できるだけ緑豊かな工業用地に見せるための景観形成という仕事もしていました。それが、一九九八年を境にピタッと止め、できることだけやるということで、幹線道路から緑地に入る箇所には全部鎖をつけ、立入禁止にした。雑木林の管理も消極的になりました。

ハスカップがもちろんあったわけですが、その時に「苫東が緑地管理に手が回らないのであれば、ハスカップと雑木林はともにも魅力のある資源なので、これを世界各地

にあるコモンズという概念で開放してほしい。その見返りに私たちが主たる所を管理するので、そういう所をコモンズと呼ばせてほしい」と話し、NPOの活動を始めました。

(株)苫東の管理が及ばない勇払原野の自然を、私たちの価値観でコモンズと呼ばせてもらい、そこを勇払原野の魅力ある資源として利用し、発信していくというのが、苫東環境コモンズの目的です。今は主に大島山林などのコナラの雑木林を管理しながら、原野のハスカップの保全を行い、緑地全体の目配りをしているという状態です。

単行本『ハスカップとわたし』

ある意味ハスカップというのは、開発が自然保護かというせめぎ合いの烙印が押されています。私はステイグマという言葉で表現しますが、キリスト教でいうところの、どこかに原罪の烙印のようなものを残してある、というものです。ハスカップというのは、開発が自然保護かの二者択一のようなステイグマが押されていると思います。

ハスカップは、農地開発・宅地開発・工業開発の犠牲になって、いま苫東の勇払原野にしか残っていない、という見方をされますが、これは北海道の縮図でもあり、一

方では苫小牧という工業都市のアイデンティティでもあります。

その点を直視してハスカップを描いておく必要があるのではないかと考え、苫東環境コモンズは『ハスカップとわたし』を出版しました。学識経験者の方々ははじめ、いろいろな知識を大成して記事にしていたのは初めてでした。

その出版費用は、雑木林の間伐で出てきた丸太を薪にして売って捻出したものです。会員が働いてうみ出したお金をストックし、本の制作費に注ぎ込みました。私たちのこの会が、お金を貯めて結局どこかに寄付することになるよりも、社会貢献として使ってしまう方がいいのではないかと考えたからです。

これから

これだけ人口が減ってくると、道内の各地では土地の管理をする人がいなくなります。農地も含め荒れ放題になっていく。土地を持っている人と、使う人と、そこで収益する人とが重層的に土地に関わっていく。そういう時代が来ます。それがコモンズという概念です。ルールを守りながら土地をみんなで管理し、使っていく。今後そういうふうになっていけばいいですね。

「万葉仮名」

新元号「令和」の典拠が万葉集であり、史上初めて日本の古典から採られたことが話題になりました。万葉集にひらがなやカタカナは無く、漢字だけです。その漢字も本来の意味を離れ、日本語の音を表記するための仮名的に使われていました。例えば「山」「夜麻」「人」「比登」「花」「波奈」といった具合です。特に万葉集に多く用いられているので、このような表記は「万葉仮名」と呼ばれています。

明治時代に日本に押し寄せた外来語も、同じように日本式漢字の音・訓から生じる音声を当てて漢字で書き表しました。「亜米利加」などがそうですね。

この万葉仮名を知ってか知らずか、今もかなり近い漢字の使い方をしている人たちがいます。「夜露死苦」などを見たことがありませんか？ そうです、暴走族です。実は夜・死・苦は万葉仮名にあります。惜しいことに「露」はありません。なぜ「路」にしなかったのか、チョット残念です。「路」ならば万葉仮名として使われており、これだと「夜路死苦」となって、ストリー性のある当て字となります。

また、最近はまだ見なくなりましたが、外来語にはこんな当て字があります。貴方は読めますか？

- ①加特力 ②混凝土 ③土瀝青

答えは①カトリック ②コンクリート ③アスファルト、です。とても読めないですね。しかし、センス抜群だと思いませんか？

そのほかにも、「金字塔」「ピラミッド」「桑港」「サンフランシスコ」「牛津」「オックスフォード」「羅馬」「ローマ」など、「新万葉仮名」といって、実に素晴らしい当て字がたくさんあります。なんだか漢字が楽しくなりますね！

OW L I N F O R M A T I O N

地球というパレットから生まれた現代美術のコレクション

タグチ・アートコレクション 球体のパレット

4月16日(火)～6月19日(水) 9:30～17:00(入場は16:30まで)
北海道立帯広美術館(帯広市緑ヶ丘2番地 緑ヶ丘公園 TEL0155-22-6963)
ほか道立釧路芸術館、道立函館美術館、札幌芸術の森美術館を巡回予定
休館日/月曜日 観覧料/一般900円、高大生600円、中学生以下無料
※帯広会場以外の観覧料は各館にお問い合わせ下さい。

多種多様な人々が暮らすこの地球は、さまざまな「色」が隣り合い、混ざり合う絵の具のパレットのようです。現代美術とは、いわばこの「球体のパレット」から色をすくい取って現在を表現しているものともいえるかもしれません。

この多様な人々の現代美術を、偏ることなく蒐集しているのが「タグチ・アートコレクション」です。本展では470点を数えるコレクションから、16カ国52組による平面55点、立体9点、映像2点の計66作品を厳選して紹介(出品点数は会場によって異なります)。アンディ・ウォーホル、キース・ヘリング、ラキブ・ショウのほか、若手作家に至るまで、世界中の現代美術がひとところに凝縮した鮮度の高い展覧会となっています。

なお、この展覧会は帯広を皮切りに、2020年1月にかけて道内の4つの美術館を巡回予定。川俣正や大竹伸朗の作品など、北海道にゆかりある作品も展示予定です。



中西出版より図録販売中
全道主要書店でお求めいただけます
(B5変形判128頁、2,200円+税)

4年ぶりの北海道公演、全5会場で開催！

NHK交響楽団演奏会 北海道公演

◇出演
指揮/ローレンス・レネス
バイオリン/服部 百音
ソプラノ/マリン・ビストレム
管弦楽/NHK交響楽団

◇曲目
モーツァルト/バイオリン協奏曲 第5番
イ長調 K.219 「トルコ風」
マーラー/交響曲 第4番 ト長調

◇入場料(全席指定・消費税込)
S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円
C席3,000円
※未就学児入場不可



◇公演日程
・帯広公演 7月8日(月)19:00開演
帯広市民文化ホール
・釧路公演 7月9日(火)19:00開演
コーチャンフォー・釧路文化ホール
・北見公演 7月11日(木)19:00開演
北見市民会館
・旭川公演 7月12日(金)19:00開演
旭川市民文化会館
・札幌公演 7月13日(土)16:00開演
札幌コンサートホールKitara

◇お問い合わせ
NHK交響楽団演奏会北海道公演
ハローダイヤル 050-5541-8600
(無休・8:00～22:00)

ハスカップを巡る市民史

勇払原野のハスカップ市民史
ハスカップとわたし
特定非営利活動法人苔東環境コモンズ・編著
定価:本体1,600円+税

北海道胆振東部地域で栽培が進むハスカップ。その源流となる勇払原野では、ハスカップ自生地を周辺の雑木林とともに「コモンズ」(地域が共有するかのよう土地)と位置づけ、管理・保全する活動が行われています。

そこで、今まで断片的に語られてきたハスカップの暮らしとの関わりや活用の歴史、保全への提言を集成。地域住民への聞き取りや寄稿、講演の活字化を通じ、ハスカップを総合的にとらえます。



中西出版
A5判、274頁
2019年4月刊行

詩人の半生を凝縮した初の詩集

空を泳ぐ
本庄英雄詩集
本庄英雄・著
定価:本体2,000円+税

3歳の頃の病が原因で歩けなくなった少年期をきっかけに詩に出会い、以来60年にわたり詩作を重ねてきた本庄英雄さんの初の詩集。

収録された43編の詩には、本庄さんが日々の暮らしの中で見出した季節の風景や、訪れた土地での出来事が物静かな筆致で描き出され、詩人が日常へ向ける柔らかなまなざしが伝わります。過去への追憶と現在への想いが込められた、作者の半生記ともいえる詩集です。



中西出版
A5判、159頁
2019年4月刊行

「生きづらさ」を抱えた男たちの物語

ンブルの丘
澤田展人・著
定価:本体1,800円+税

交通事故で同乗者の女性を死なせ、厭世的に生きる亮次。幼少時に母親から虐待を受け、感情を制御できない恭介。「生きづらさ」を抱えた2人の男の人生は交錯し、混じり合い、引きつけ合う。

社会の底流でもがく男たちの邂逅の物語は、挫折と再生を繰り返しながら進み、静かな余韻を残します。内容も、日本語としても、これだけいい、いや、こうでなくては、というものがギッシリ。第52回北海道新聞文学賞受賞作です。



北海道新聞社
四六判、296頁
2019年4月刊行

